

生成AI監査ログ分析サービス

EY新日本有限責任監査法人
Forensics事業部 (Forensic & Integrity Services)

生成AI活用を取り巻く状況

企業への生成AI導入が進む一方、「ライセンスを配布したが活用が定着しない」、「誰がどのように使っているか分からない」、「生成AIに特有のリスクへの対応が追いつかない」といった課題が多く、組織で顕在化しています。

導入初期には研修や社内の情報発信などを通じて認知度は高まるものの、日常業務への組み込みには至らず、利用が一部のユーザーに集中したまま全社への定着が進まないケースが目立ちます。その結果、利用状況が組織内で二極化し、ライセンスの費用対効果や活用施策の効果を判断しにくい状況が生じます。

加えて、部門ごとの業務特性や取り扱う情報の違いにより、利用頻度・利用アプリ・参照情報にも差が生じやすく、全社一律の施策では十分に対応することが困難です。

さらに、生成AIの回答品質は参照する情報資産の整備状況に左右されます。必要な文書が分散し、最新の状況にアクセスし

づらい環境では、生成AIを導入しても期待する効果を十分に得ることは困難です。

一方、活用が広がるほど、機密情報の取り扱いや外部情報への過度な依存、Jailbreak (生成AIの安全制限を回避して本来想定されていない回答を引き出す手法) や間接プロンプトインジェクション (生成AIが参照する文書やweb情報に含まれる指示によって、利用者の意図とは異なる動作を引き起こす手法) といった新たなリスクにも目配りが必要になります。

よくある課題

- 利用実態が見えず、活用施策や費用対効果が判断できない
- 部門やユーザーごとの活用度合いや業務内容の違いが大きく、全社一律の活用施策では対応できない
- 参照する情報資産の整備が課題となっているが、何を優先的に整備すべきか不明確
- Jailbreakや間接プロンプトインジェクションといった生成AI特有のリスクへの対応ができていない

生成AI監査ログ分析サービス

本サービスは、生成AIの監査ログを多角的に分析し、組織の生成AI活用推進・情報資産整備・安全利用促進を一体的に支援するサービスです。EY Forensicsのテクノロジーのプロフェッショナルが、次の3つの観点に基づく分析を実施し、レポートを提供します。

先進的ユーザーの特定と活用推進

生成AIの利用頻度・アプリ活用の幅・対話の深さなどにに基づき、ユーザーをセグメントに分類します。

先進的なユーザーを特定し、そのユースケースを部門展開するための情報を提供します。

- 全社／部門別のセグメント構成比や週次推移などを可視化
- 最優先ヒアリング対象の先進的ユーザーの特定

情報資産の整備と回答品質の向上

生成AIが実際に参照している社内文書を特定し、情報資産整備の優先順位付けを支援します。監査ログを根拠にした文書整備により、組織全体の活用水準を上げます。

- 参照頻度の高い社内文書の抽出
- 一緒に参照される文書を整理し、情報の更新漏れを防止
- 参照回数の上昇など整備効果のモニタリング

安全なAI活用の促進

Jailbreakや間接プロンプトインジェクションの検知・傾向分析を行います。過度な制限ではなく、実態に即したリスク管理を行うことで、利用を萎縮させず、組織全体のAIリテラシーと安全利用の水準を継続的に高めます。

- Jailbreakや間接プロンプトインジェクションの検知件数と傾向を分析
- 継続的なモニタリングと実態に即した教育によりAIリテラシーを向上

The better the question.
The better the answer.
The better the world works.



Shape the future
with confidence

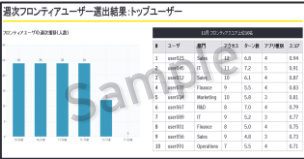

分析内容と報告書イメージ

本サービスでは、生成AIの監査ログを多角的に分析し、活用状況、参照情報、リスク兆候を一体として整理したレポートを提供します。単なる利用件数の集計ではなく、先進的ユーザーの候補、部門別成熟度、重点整備資料候補、Jailbreakや間接プロンプトインジェクションの傾向まで可視化し、活用推進と安全な生成AI活用の両立に向けた示唆を導きます。

主要指標ごとに意味合いと対応策を整理し、推進部門・ITシステム部門・利用部門が共通言語で議論できる基盤を提供します。

分析内容と分析レポートの活用イメージ

指標例	意味合い	アクション例
アクティブ率	浸透度	未利用層への周知・導線改善 ライセンス最適化の判断材料
利用回数	試行量	日常業務への組み込み促進 ユースケースの提供
チャットターン数	対話の深さ	先進的ユーザーのノウハウ展開
アプリ種別	利用の幅	業務別の利用特性の整理
参照文書上位	整備優先度	社内文書の整備による 公式回答化と回答品質の向上
web検索率	外部依存度	必要な情報の社内整備 生成AIの情報参照導線の強化
Jailbreak等検知数	リスク兆候	教育・ルール改善 高リスクな外部文書のブロック

分析内容	活用イメージ
部門別セグメント構成、部署ごとの利用成熟度の差異 	全社・部門別の利用状況と週次推移 生成AIの利用状況や活用習熟度を定量的に把握
進捗プロンティアユーザー選出結果、トップユーザー 	セグメント分析と先進的ユーザー候補の抽出 各指標を併せて分析し、組織内の業務プロセスに精通した先進的ユーザーを抽出
Knowledge Ops: 優先メンテナンス文書リスト (Top 10) 	参照文書状況と優先文書の抽出 生成AIの参照情報を基に各指標を併せて分析し、優先度の高い文書を抽出
Guardrail Ops: XPIA - Jailbreak検知とリスク分析 	高リスク利用の分析 Jailbreakや間接プロンプトインジェクションなど高リスク利用の検知状況を把握

※分析内容はご利用のITシステムなどにより変更となる可能性があります。また、分析は監査ログ等を対象としており、ユーザー入力のプロンプトや生成出力は対象としておりません。

ログ分析をAI活用推進の起点に

アンケートや限定的なヒアリングだけでは把握しにくい利用実態を、監査ログに基づいて客観的に可視化することで、優先課題の整理と改善施策の立案を支援します。また、部門別・時系列で利用状況の変化を捉えることで、施策実施後の改善効果の確認にも役立ちます。

本サービスは、現状を把握するための分析としても有効である一方、さらに継続的なモニタリングとして実施することで生成AI活用を高度化するための起点としても活用いただけます。

お問い合わせ先

EY新日本有限責任監査法人 Forensics事業部 (Forensic & Integrity Services)

TEL: 03 3503 3292 Email: forensics@jp.ey.com URL: ey.com/ja_jp/services/forensic-integrity-services

EY | Building a better working world

EYは、クライアント、EYのメンバー、社会、そして地球のために新たな価値を創出するとともに、資本市場における信頼を確立していくことで、より良い社会の構築を目指しています。

データ、AI、および先進テクノロジーの活用により、EYのチームはクライアントが確信を持って未来を形づくるための支援を行い、現在、そして未来における喫緊の課題への解決策を導き出します。

EYのチームの活動領域は、アシュアランス、コンサルティング、税務、ストラテジー、トランザクションの全領域にわたります。蓄積した業界の知見やグローバルに連携したさまざまな分野にわたるネットワーク、多様なエコシステムパートナーに支えられ、150以上の国と地域でサービスを提供しています。

All in to shape the future with confidence.

EYとは、アーンスト・アンド・ヤング・グローバル・リミテッドのグローバルネットワークであり、単体、もしくは複数のメンバーファームを指し、各メンバーファームは法的に独立した組織です。アーンスト・アンド・ヤング・グローバル・リミテッドは、英国の保証有限責任会社であり、顧客サービスは提供していません。EYによる個人情報の取得・利用の方法や、データ保護に関する法令により個人情報の主体が有する権利については、ey.com/privacyをご確認ください。EYのメンバーファームは、現地の法令により禁止されている場合、法務サービスを提供することはありません。EYについて詳しくは、ey.comをご覧ください。

EY新日本有限責任監査法人について

EY新日本有限責任監査法人は、EYの日本におけるメンバーファームであり、監査および保証業務を中心に、アドバイザリーサービスなどを提供しています。詳しくは、ey.com/ja_jp/about-us/ey-shinnihon-llcをご覧ください。

© 2026 Ernst & Young ShinNihon LLC. All Rights Reserved. ED None

本書は一般的な参考情報の提供のみを目的に作成されており、会計、税務およびその他の専門的なアドバイスを行うものではありません。EY新日本有限責任監査法人および他のEYメンバーファームは、皆様が本書を利用したことにより被ったいかなる損害についても、一切の責任を負いません。具体的なアドバイスが必要な場合は、個別に専門家にご相談ください。

ey.com/ja_jp